

2023



Nemertes

Better data. Better decisions.



Appgate SDP: ZTNAによる価値の促進

NemertesのReal Economic Value調査は、Zero Trust Network Access (ZTNA) ソリューションであるAppgate SDPのビジネスおよびオペレーションへの影響を独自に評価したものです。Nemertesは、組織のリソースにきめ細かく流動的で安全なアクセスを提供するためにこの製品を使用している技術専門家へインタビューを行い、Appgate SDPが組織にもたらす現実的な利益と改善策を数値化しました。

Por John Burke, CTO

Nemertes

Abril 2023

目次

1. 要旨	3
2. 本調査について	4
3. 導入：ドライバーとユースケース	5
3.1 ユースケース	5
3.2 なぜAppgate SDPを導入するのか	7
4. 主な利点：セキュリティカウントとアタックサーフェスの削減	8
5. 主な利点：ユーザープロビジョニングを適切に行う	9
5.1 クラウドおよびリモートユーザー	11
5.2 オンプレミスユーザ	12
5.3 サードパーティユーザー	13
6. 主な利点：ゼロトラストの推進	14
7. 結論	14
8. 事例紹介	15
8.1 事例紹介のまとめ	15
8.2 金融サービス企業、統制を強化しながらユーザアクセス管理を改善	16
8.3 国際ITサービス企業、深いゼロトラスト機能を実装	17
8.4 国際ITアウトソーシング企業、ネットワークコレクションの保護が必要	18
8.5 ゼロトラストに関する行政命令を受け、連邦政府機関がZTNAの推進を再強化	19
8.6 グローバルアウトソーシング企業、AWSリソースへの安全なアクセスを制御	20
8.7 ソフトウェアおよびITサービス企業、拡大を支える迅速なゼロトラストを選択	21
8.8 レガシーVPNソリューションの置き換えというニーズを持つグローバルメーカー が求めていたもの	22
8.9 保険会社、施工管理会社にゼロトラストの導入を促進	23
8.10 大手インターネット通販企業、ゼロトラストの最小権限アクセスを実現	24
9. 方法論	25

1. 要旨

この調査研究は、米国および多国籍の幅広い企業の、中規模から大規模な組織のテクノロジーリーダーへのインタビューに基づいています。インタビューでは、ZTNA (Zero Trust Network Access) ソリューションであるAppgate SDPのユースケースの理解と詳細、および組織における運用と戦略のメリットの数値化に焦点を当てました。全体として、Appgate SDPは、急速に進化する複雑で高度なサイバーセキュリティの脅威と要件に効果的に対処するために、4つの方法で組織を支援していることがわかりました。

1. Appgate SDPは、組織のセキュリティをより良いものへ：Appgate SDPを使用することで、セキュリティインシデントの発生件数や脅威へが減少し、システムへのアクセス権限をきめ細かく制御し、最小権限のゼロトラストアクセス原則の自動実行が可能になりました。
2. Appgate SDPでセキュリティ強化が容易に：具体的には、より正確な権限の付与が容易になり、時間の経過に伴う権限の割り当ての変更をより簡単に管理することができるようになりました。
3. Appgate SDPにより、より良く簡単に迅速なセキュリティを実現：サイバーセキュリティと運用チームは、アカウント権限の設定と必要な変更を以前より速やかに行うことができ、より多くのアカウントと権限管理のオペレーションを自動化することができるようになりました。
4. Appgate SDPは、悩めるITチームのために、より良く簡単に迅速なセキュリティを実現：Appgate SDPは、必要なアクセス管理ツールの数を減らし、より高度なセキュリティを提供するとともに、アクセス管理に必要なスタッフの作業時間を減らすことを可能にしました。

主な業務への影響

すべての参加者が、サイバーセキュリティのインシデント数からクラウドユーザーのアクセス権変更にかかる時間まで、重要な運用指標において、少なくとも一つは測定可能な改善があったことを報告しています。また、Appgate SDPがゼロトラストイニシアチブの推進に貢献したことも確認されました。

- ・ 新規アカウントのアクセス権を適切にプロビジョニングする時間が平均62%減少
- ・ アカウントのアクセス権を変更する時間が平均87%減少
- ・ リモートアクセスの管理に必要なスタッフの作業時間が平均32%減少
- ・ オンプレミスのアクセス管理に使用するツール数が平均55%減少 (1つ以上あった場合)
- ・ 組織のゼロトラスト環境におけるサーバの85% (平均) がAppgate SDPによって保護

2. 本調査について

本調査では、Nemertesは2022年10月～2023年1月の4ヶ月間、米国および多国籍企業のテクノロジーリーダーを対象にインタビューを実施しました。オンライン調査やテレホンバンクは使用せず、Nemertesのアナリストが参加者全員と面談しました。また、必要に応じて電子メールによるフォローアップを行い、理解度の確認や追加データの収集を行いました。参加者全員が、インタビューの時点でAppgate SDPを本番環境で使用していました。参加した組織は、平均従業員数が5万人、年間売上高（非営利団体の場合は営業予算）が310億ドルの中堅から大企業でした。参加企業の業種は、小売業、製造業、金融サービス業、ソフトウェア業、専門サービス業、連邦政府などでした。また、参加者の組織は、テクノロジー導入に関して戦略的な考え方を持つ人が多い傾向がありました。（図1参照）大半の組織（67%）は、ITを戦略的な投資としてとらえ、同業他社との競争力を高めるために取り組んでいます。また、11%はさらに踏み込んで、持続的な競争優位を得るためのテクノロジー投資を考えています。残りの22%は、より穏健で、戦略的な技術投資と見なす特定の技術投資はごくわずかです。また、技術的に保守的で、ITはあくまで「ビジネスを行うためのコスト」であり、戦略的なものではないと考えています。

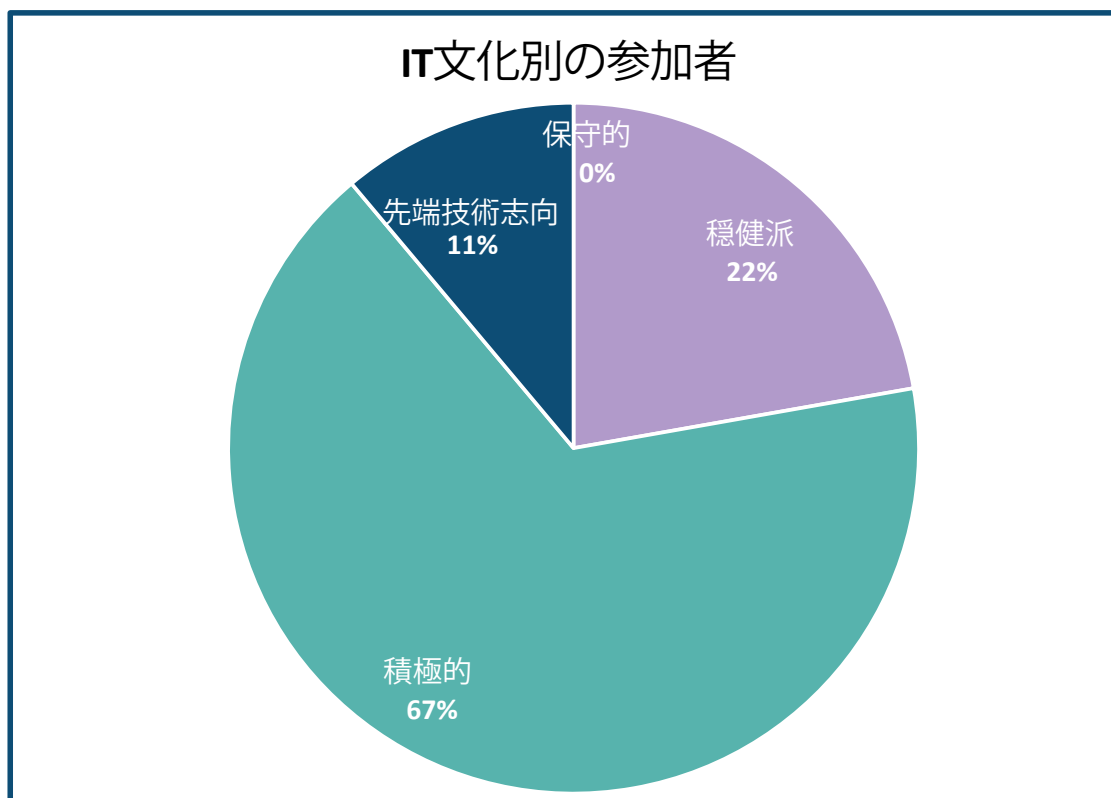


図1: コンピュータリテラシー別の参加者数

3. 導入：ドライバーとユースケース

Appgate SDPは、組織のリソースへのネットワークアクセスを制御します。リソースの使用を許可されていない人やシステムは、ネットワーク上のそのリソースを見ることができません。この基本的な機能を中心に、組織は特定のユースケースのニーズを満たすためにAppgate SDPを導入しています。「一つ特定のユースケース」ではなく「複数の特定のユースケース」と表現しているの、参加者全員が複数のユースケースを念頭に置いて取得・導入していたためです。(図2参照) 1つのツールを複数の目的で使用することで、参加者はサイバーセキュリティの運用とツールセットを簡素化することができました。

Appgate SDPの複数のユースケースを持つすべての参加者

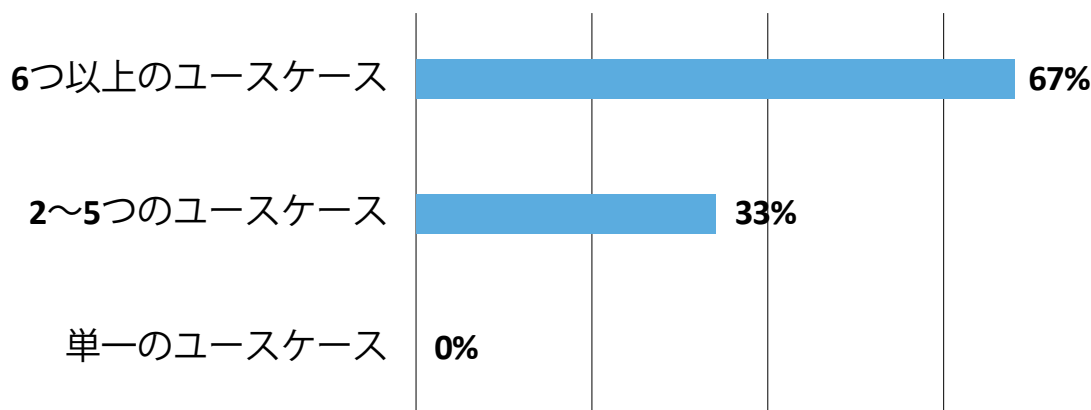


図2: 複数のユースケースに対応したAppgate SDP

3.1 ユースケース

Appgate SDPのコア機能を考えれば、参加者が挙げたユースケースの半分が、異なるユーザーのリソースアクセス管理に関連するものであるのは当然のことです。(図3参照) また、最近のパンデミックを考えると、すべての参加者が、Appgate SDPを導入した理由として、リモート従業員のアクセス管理の問題を挙げたことも驚きではありません。また、ほぼ同数の89%が、クラウドユーザーのアクセス管理にも注力していました。中堅のソフトウェアおよびITサービス企業の主任エンタープライズ・アーキテクトは、「当社は最後のデータセンターを閉鎖する過程にあり、AppgateはIaaSとSaaSの両方が必要としているのだ。ユーザーにシームレスなアクセスレイヤーを提供することで、IaaSへの移行を容易にし、新しいクラウドプラットフォームを透過的にモジュール化し、追加することができた」と述べています。新しいクラウドプラットフォームを透過的にモジュール化して追加することができました。長年の課題を解決するために、78%がAppgate SDPを導入し、請負業者やパートナーなどのサードパーティユーザーのアクセス管理能力を獲得、または向上させました。大手プロフェッショナルサービス企業のクラウドソリューションアーキテクトは、「(当社の) 既存のリモートアクセスソリューションでは、第三者の契約社員が当社の資産にアクセスすることはできなかった」と述べています。

また同じ78%の人が、オンプレミスの従業員のアクセス管理に重点を置いていました。「ZTNAは 長期戦であることを理解し、これを完全なZTNA製品として進化させる予定だ」と、大手メーカーの 企業インフラストラクチャ担当ディレクターは述べています。

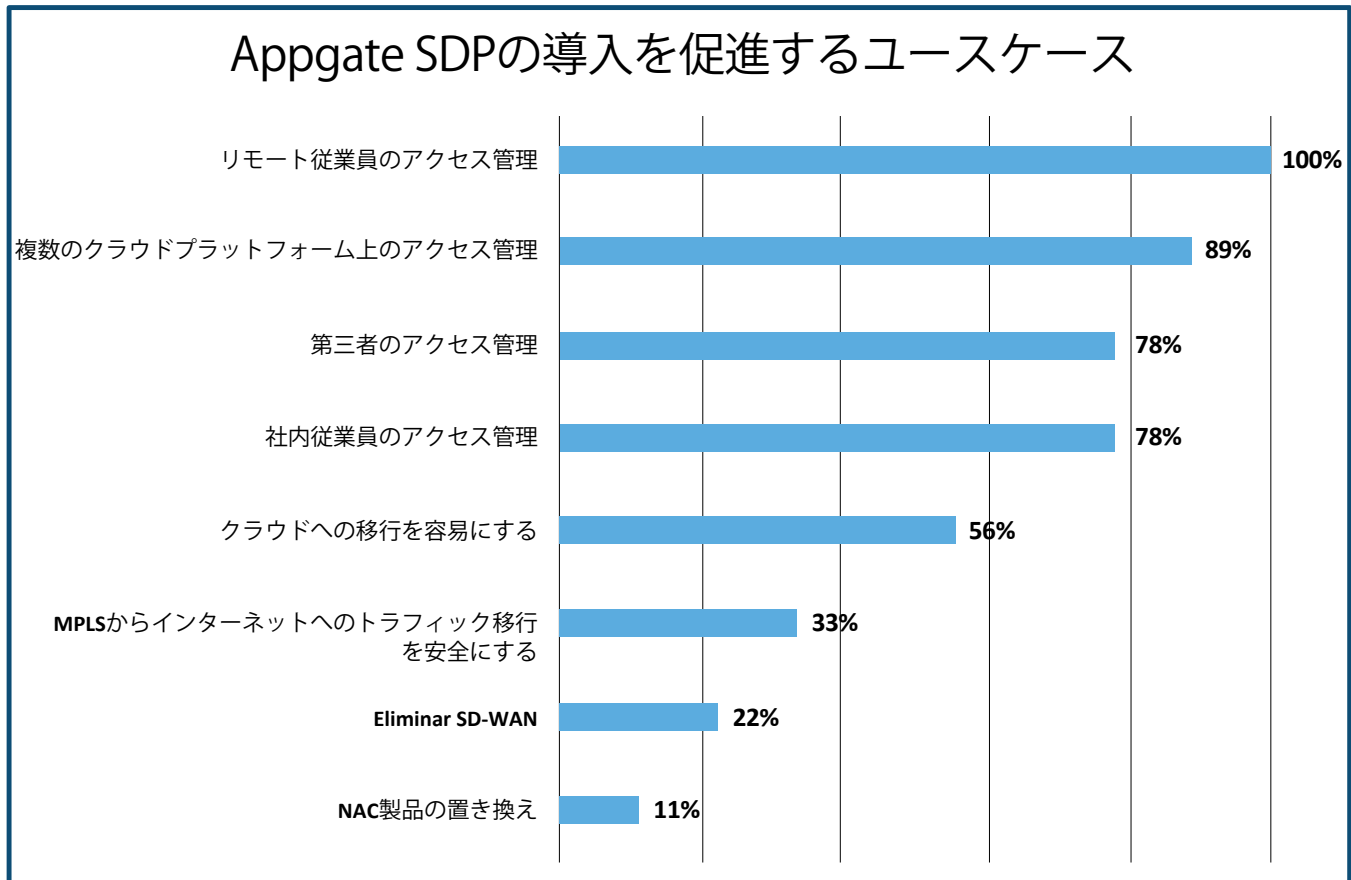


図3: Appgate SDPの使用例

この一連のユースケースは、Appgate SDPを使用している多くの組織が辿った、あるいは辿ろうとしている導入の経緯を表しています。多くの場合、レガシーVPNへの不満からリモートユーザー 管理から始まり、他のZTNAユースケースに進んでいきます。組織は、リソースへのユーザーアクセスの管理を中心とした基本的な問題にとどまらず、ITとサイバーセキュリティにおけるより広範 な戦略的目標を達成するためにAppgate SDPを導入しました。半数以上(56%)が、より多くのリソースをクラウドに移行するという戦略を推進するためにAppgate SDPを導入し、ユーザーがリソースにアクセスする方法を変えずに極めて厳格なアクセス管理方法を維持し、管理者のアクセス管理方法を単純化することを可能にしました。あまり一般的ではありませんが重要なこととして、参加者は、古いネットワークやセキュリティ技術からの移行を支援するためにAppgate SDPを導入しています。

- ある3社では、MPLSの導入を容易にするためにAppgate SDPを導入しました：ZTNAを使用して、インターネット上でユーザーやシステム間のすべての通信を簡単かつ透過的に保護できるのであれば、MPLS WANとそれに付随する費用はもはや必要なかったのです。Appgate SDPを導入するのであれば、両方の料金を払い続ける必要はないと考えたのです。
- また、22%はすでにSD-WANに移行し、同様にZTNAを使用してSD-WANソリューションの必要性を排除し、削除させることができました。
- 最後に、11%がネットワークアクセスコントロール (NAC) の置き換えを対象としていました。これは、NACシステムの完全な導入が困難であるという評判を考えると、驚くほど低い割合です。しかし一方で、この困難さは、これらの組織のうち、交換すべきアクティブなNACシステムがそれほど多くないことを意味するかもしれません。

3.2 なぜAppgate SDPを導入するのか

ZTNAは、リモートワーク、クラウド移行、急速に拡大するサイバー脅威の世界、そして米国政府による継続的なゼロトラストセキュリティ指令のおかげで、大きな話題になっています。ZTNAソリューションは他にもたくさんあります。これらの企業がAppgate SDPを選択した主な理由は、リモートユーザーアクセスやクラウドアクセスだけでなく、ネットワーク上のあらゆる形のリソースアクセスに対応する包括的なZTNAソリューションであることを確認したことです。同時に、柔軟なアクセス管理を容易にし、環境間でより一貫性を持たせることができると判断されたのです。

- 「ほとんどの製品はWebだけにフォーカスしていたが、Appgateはネットワーク中心なところにとっても興味があった」(大手ITサービス企業の主任アーキテクト)
- 「国家のサイバーセキュリティの向上に関する大統領令14028号...その概要は、ゼロトラストアーキテクチャの導入だ。Appgateはマイクロセグメンテーションデバイスとして機能し、この分野では真の競合はほとんどいない。EO以前から、このような傾向にあった。マイクロセグメンテーションとデバイスのコンプライアンスという組み合わせが気に入っている」(大規模連邦組織のクラウドネイティブアクセスポイントのプロダクトマネージャー)
- 「セキュリティプロバイダーがZTを話題にするようになり、Appgateはその方向性にぴったりだと思った。VPNと違って場所を特定したことが簡単にできる」(専門サービス企業のITディレクター)
- 「ソフトウェアのメカニズムによって最小限の特権アクセスを提供する代表的な方法の1つ」(大手小売企業のセキュリティオペレーション担当アソシエイトディレクター)
- 「当社は多くの企業、多くのネットワークの集合体であり、アクセスを管理しゼロトラスト環境を構築するための単一のソリューションを探している」(大手ITサービス企業のメジャープログラムおよびネットワーキング担当副社長)

4. 主な利点：セキュリティカウントとアタックサーフェスの削減

ゼロトラストの原則は、保護されたリソースとの通信を許可する明確なポリシーがない限り、通信を許可しないことを規定するものです。完全なゼロトラスト環境におけるこの要件の重要な帰結の内の1つは、デフォルトで保護されたリソースはネットワーク上の他のものから見えなくなることです。保護されたリソースは、アクセスが試みられた時点で、明示的にアクセス許可を与えられたユーザーとシステムのみが、ネットワーク上でアクセス可能となり、所定のアクセス手段によってのみ、接続しようとするたびに認証されます。アクセスが試みられたときに、その許可を与えていないユーザーやシステムにとって、リソースは見えないままとなります。

これは、一般的なデータセンターやIaaS環境とは大きく異なる点で、システムはデフォルトで隣接するシステムや、境界ファイアウォールを通過できる外部のシステムから見えるようになっていきます。いったん環境内にそれが整えば、そこにある他のすべてのシステムを自由に調査し、攻撃することができるようになります。Appgate SDPは、保護されたリソースへ不正な側面アクセスをブロックします。ある大手小売企業のセキュリティ・オペレーション担当アソシエイト・ディレクターは、「当社のレガシーな社内システムの多くはパッチが適用されておらず、修復が困難な脆弱性を抱えている。これらの機械へのアクセスを、正当なニーズを持つ人だけに限定することで、攻撃対象が大幅に減少した」と述べています。

サイバーセキュリティチームが対応しなければならないセキュリティインシデントの件数を、参加

者の83%が大幅に削減しました。

Appgate SDPを導入することで、VPNやアクセスに関連する多くのセキュリティ問題が解消され、攻撃対象が大幅に減少したのです。参加者の83%が、サイバーセキュリティチームが対応しなければならないセキュリティインシデントの数が大幅に減少したと述べたことは驚くべきことではありません。大手メーカーの企業インフラストラクチャ担当ディレクターは、「確かに、セキュリティ脅威の状況やプロファイルを劇的に減らすことができた」と述べています。さらに、Appgate SDPが提供する広範なログインとアクセス試行に対するより深い可視性のおかげで、「(インシデントに対する)より詳細な洞察を得られるようになった」と大手ITサービス会社のプリンシパルアーキテクトは述べています。

「当社のレガシーな社内システムの多くはパッチが適用されておらず、修正するのが困難な脆弱性を含んでいる。これらの機械へのアクセスを、正当なニーズを持つ人だけに限定することで、

攻撃対象が大幅に減少した。」大手小売業セキュリティ運用担当アソシエイト・ディレクター

5. 主な利点：ユーザープロビジョニングを適切に行う

Appgate SDPは、保護されたリソースへの適切なアクセス権限のプロビジョニングを中心に、すべてのユースケースで一貫して大きな改善を実現していることがわかりました。これには、アカウント作成時の初期アクセス権の設定と、ユーザーの役職や役割の変更、ニーズの変化、システムの変更に伴う権限の更新という継続的なタスクの両方が含まれます。Appgate SDPの導入により、ユーザアクセスの初期設定に要する時間は約3分の2に、アクセス権限の変更に要する時間は約9割に短縮されました。(図4、図5参照)つまり、数日、数週間かかっていた時間が、数時間、数分に短縮されたのです。また、あるユースケースでは、他のユースケースよりも劇的な改善が見られました。

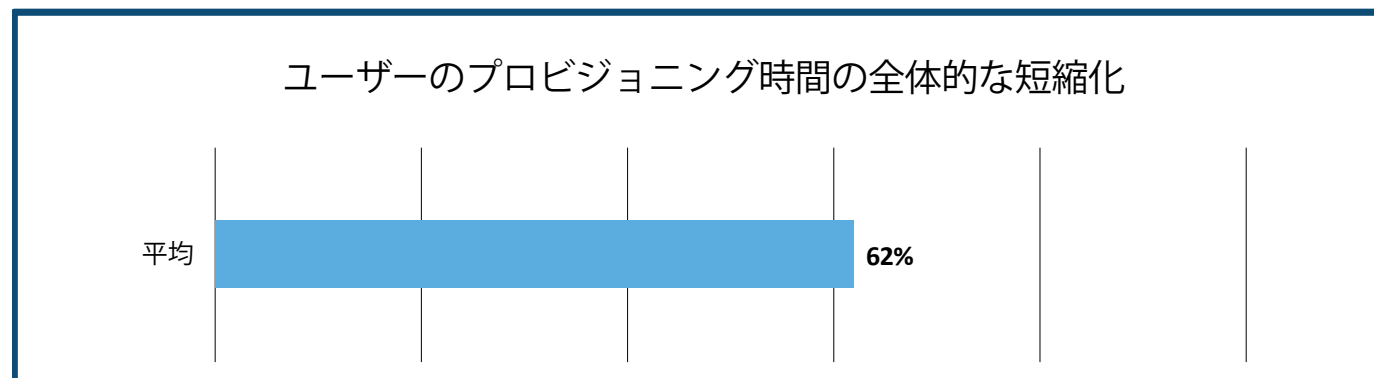


図4:新規アカウントのアクセスプロビジョニング時間短縮の平均値

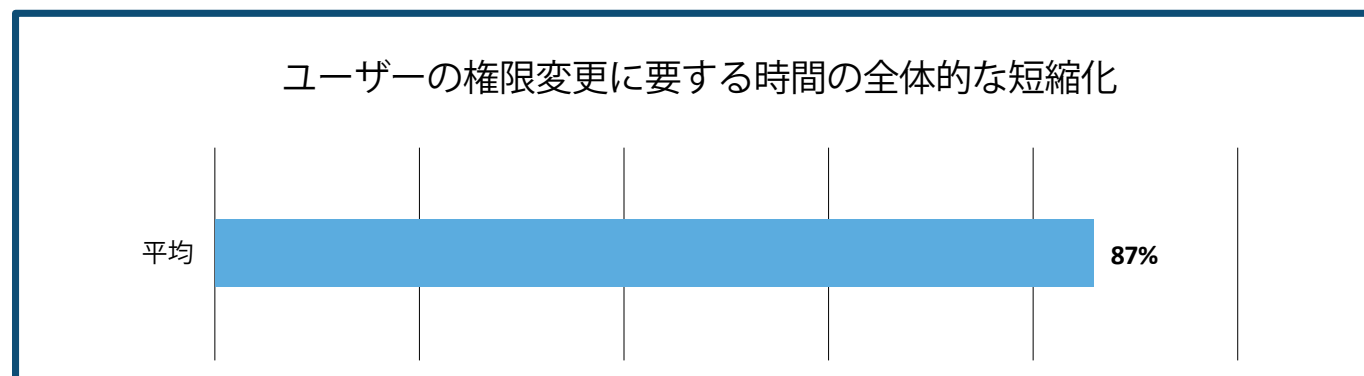


図5:アクセス修正に要する時間の平均削減量

(図6、図7参照) プロビジョニングの分野では、3分の1弱から70%以上の時間短縮が見られました。最も改善されたのは第三者のアクセス管理で(平均71%の時間削減)、次いでクラウドユーザーへの正しいアクセス設定でした。

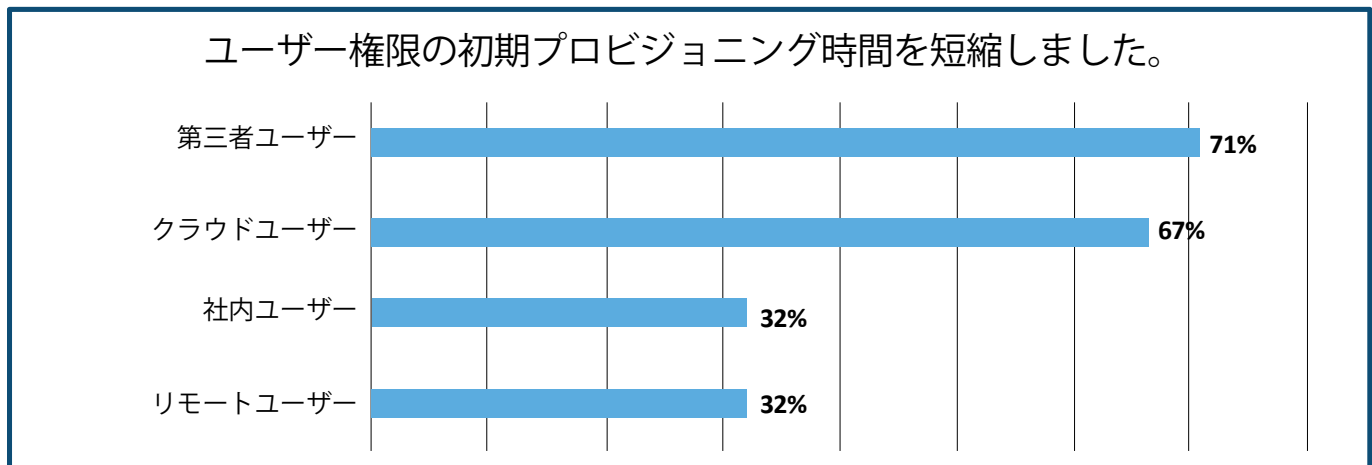


図6: ユースケース別ユーザー権限の初期プロビジョニング時間の平均改善量

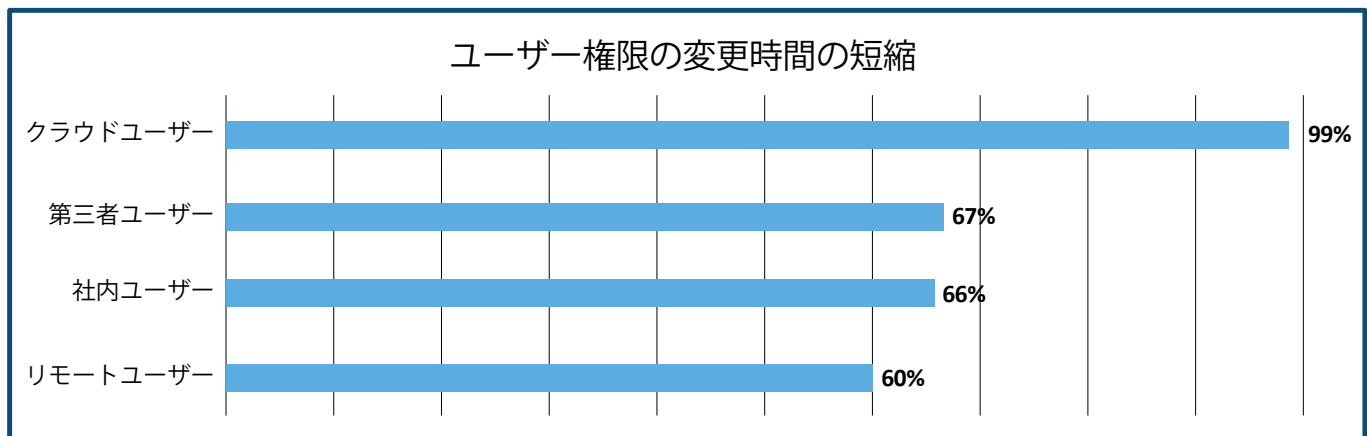


図7: ユースケースごとの特権変更時間の平均改善量

アクセス権の変更については、すべてのユースケースでアクセス権の変更にかかる平均時間が 60%以上短縮されました。クラウドのユースケースで最も劇的な改善が見られ、平均99%という驚異的な時間短縮を達成しました。この理由として、参加者は、アクセスに関するすべての問題に対処するための一貫したプラットフォームがあること、アクセスポリシーの設定が容易であること、関連業務の自動化が可能であること、などを挙げています。

5.1 クラウドおよびリモートユーザ

Appgate SDPの管理者は、リモートユーザのプロビジョニングに必要な時間を平均で32%短縮し、クラウドユーザのプロビジョニングに必要な時間を67%短縮したことを確認しました。また、既存のリモートユーザの権限変更に要する時間は平均60%、クラウド利用権限の変更に要する時間はなんと99%削減されました。このような変化は、大きなインパクトがありました。ある大手ITサービス企業のプリンシパルアーキテクトは「Appgateのおかげで、アプリをクラウドに移行する決断が容易になった。Appgateを導入する前は、クラウドアプリケーションにアクセスするためのユーザをプロビジョニングすることができなかった。」と述べています。この意見は、大手専門サービス企業のクラウドソリューションアーキテクトも同じでした。「Appgateを導入する前は、現場作業員のクラウド導入アプリケーションへのアクセスを許可することができなかった。

Appgateを導入したことで、以前は存在しなかった機能を手に入れることができた。今ではAPIを最大限に活用し、認証活動の大部分を完全に自動化している」

「Appgateのおかげで、アプリをクラウドに移行する決断が容易になった。導入する前は、クラウド

アプリケーションにアクセスするためのユーザをプロビジョニングすることができなかったが、今

では場合によっては自動で変更することも可能となった」大手ITサービス企業主任アーキテクト

Appgate SDPのユーザは、プロビジョニングと権限変更の実行に必要な従業員の作業時間を

平均で32%削減しました。

Appgate SDPで可能な制御の粒度は、ほとんどの参加者が慣れ親しんできたものよりもかなり優れていることを忘れてはいけません。「Appgateはアクセス管理をよりきめ細かく行うことができる」と、ある大手小売企業のセキュリティ運用担当副部長は述べています。「Appgateを導入する前は、アクセスはすべてか無かのどちらかだった。Appgateを使うことで、アクセスの詳細をより厳密に管理できるようになり、そのための時間は、フルアクセスを許可するのにかかった時間の3分の1になった」

制御の粒度と同様に重要なのは、(上記のコメントにあるように)自動化の度合いを含む変更の容易さです。Appgate SDPの管理者は、ユーザのプロビジョニングと権限変更にか

かる時間をカレンダーに記録する時間とは別に、プロビジョニングと権限変更の実行に必要なスタッフの作業時間を平均32%削減することができました。

この2つを合わせると、負担が大きくコストのかかるサイバーセキュリティスタッフの作業に多くの時間を割くことができるようになるのです。「承認後の権限変更の実行は、数秒から5分程度。Appgateを導入する前は実装に必要な情報セキュリティのハンズオンの時間は平均1週間だった。チームは定員オーバーでしたよ」。

5.2 オンプレミスユーザー

Appgate SDPは、オンプレミスユーザのアクセス管理においても同様の改善を実現しました。ユーザの初期アクセス権限のプロビジョニングに必要な時間を平均32%削減し、その後の変更 管理に必要な時間を66%削減したのです。特に、Appgate SDPは、ITチームがユーザーアクセスのプロビジョニングと管理に関わるツールの数を削減することを可能にしました。アクセス管理 ツールを1つに絞っていなかった半数の組織では、Appgate SDPの導入により、使用中のツール 数を56%削減することができました。(図8参照)

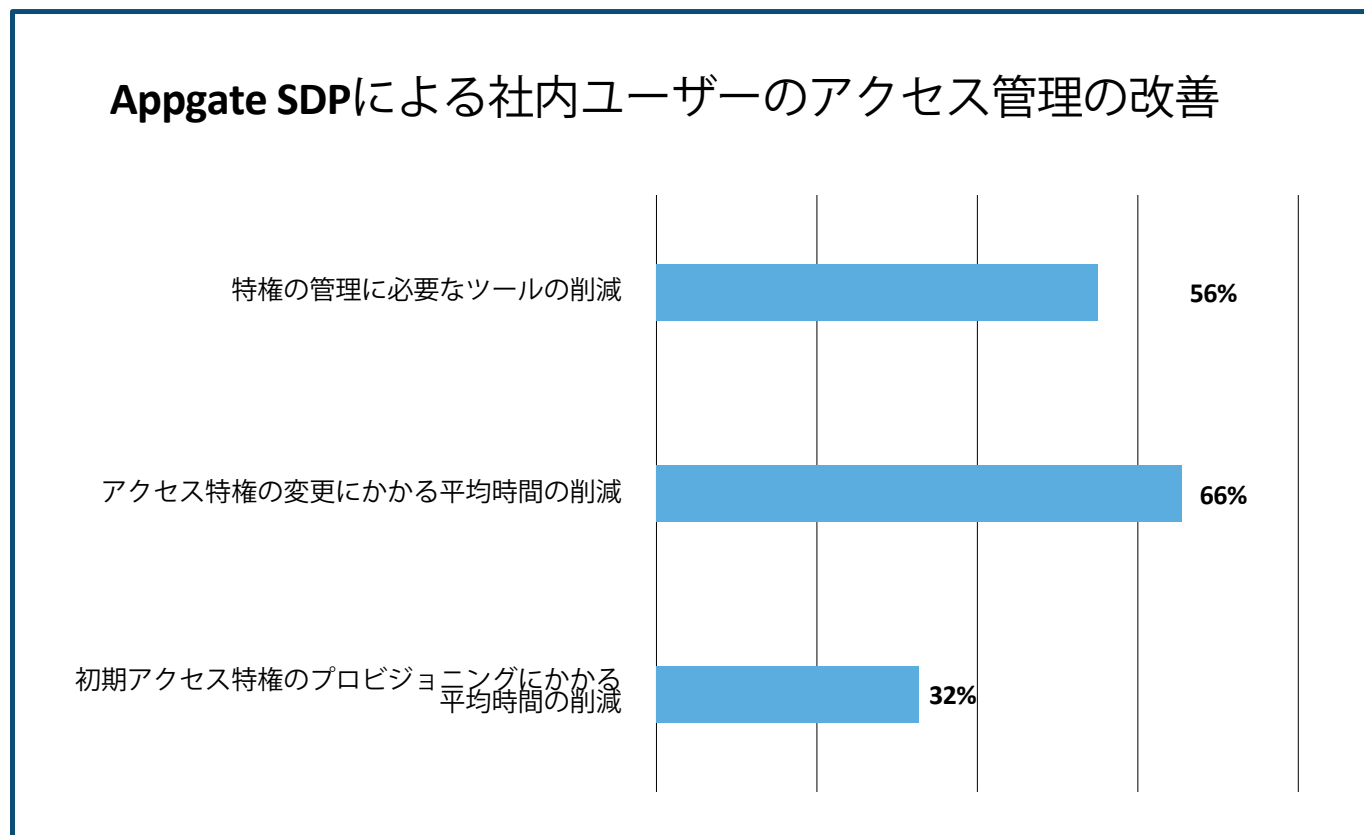


図8:ローカルユーザー管理の改善

Appgate SDPを使用してオンプレミスのアクセスを管理することで、ネットワーク自体へのアクセスを制御し、アクセスを求めるシステムのプラットフォームの健全性チェックとアクセスの決定を連携させるという、組織がNACに求める主要な要件のほとんどを満たすことができます。「Appgate 以前は、プロビジョニングもなく、ただネットワークに接続するだけだった」と、ある大手メーカーの 企業インフラストラクチャ担当ディレクターは言います。「Appgateのおかげで、すべてのユーザー に対して安全なポリシーを確立することができた」

5.3 サードパーティユーザー

第三者アクセスは、長い間IT部門にとって悩みの種でした。ビジネスパートナーやテクノロジー パートナー、あるいは請負業者のために働く人々は、しばしば組織のシステムへのアクセスを必要としますが、そのアクセスは、従業員に与えられるアクセスと同じであってはなりません。つまり、サードパーティユーザーには、従業員がアクセスするシステムのごく一部のみにアクセス権が与えられるのが理想的なのです。

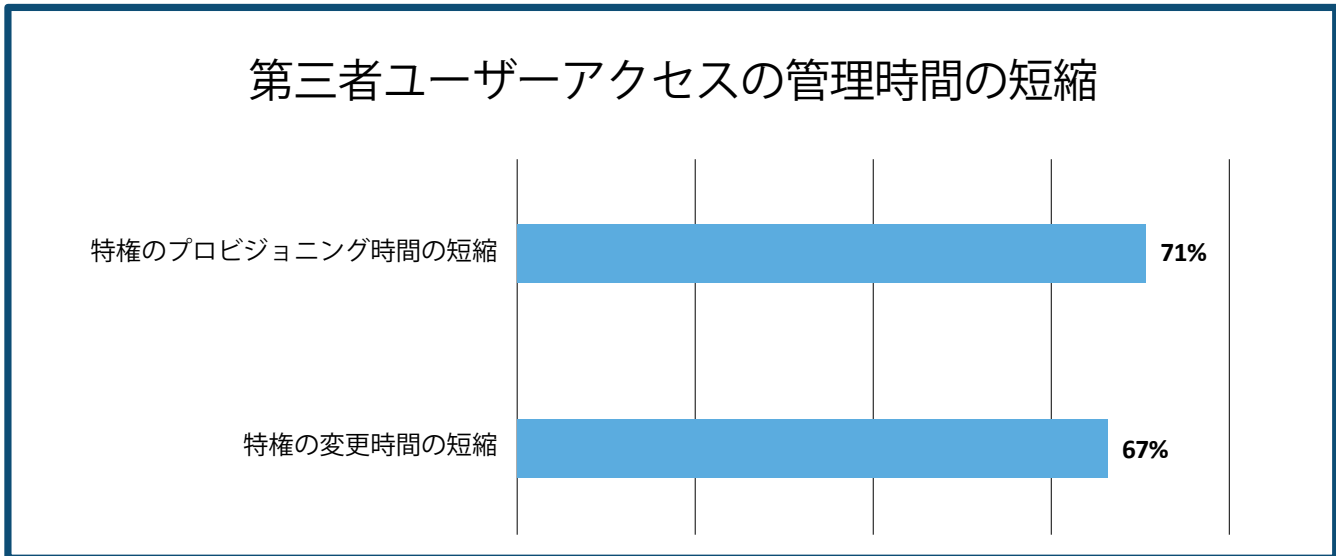


図9: サードパーティユーザーの管理方法の改善

しかし、残念ながら、ほとんどの組織では、このようなことを容易に、あるいは可能にするアクセス 管理システムを導入していません。そのため、社内システムへの第三者からのアクセスを禁止せざるを得ないケースも少なくありません。ある大手ITサービス企業のプリンシパルアーキテクトは、「以前は、第三者のアクセスを許可するツールがなかったため、許可することができなかった」と述べています。この思いは、大手専門サービス企業のクラウドソリューションアーキテクトも同じでした。「Appgate以前は、第三者からのアクセスはなかったが、Appgateはこれを可能にした」

単純にアクセスを禁止することができない企業は、その代わりに、他のユーザーと同じように、誰もが見ることができる内部システムへのネットワークレベルのアクセス権限をサードパーティユーザーのアカウントに付与しなければならないことがほとんどでした。これらの組織は、一般に、これらのユーザーを別個のグループとして追跡し、彼らが持つべきアクセス権限の変化（例えば、契約満了時に失うべきアクセス権など）を常に把握しようとするのですが、このような取り組みは 通常失敗に終わり、古いアカウントは蓄積され、サイバーセキュリティ上の負債となり、大きなリスクとなっていたのです。

参加者によると、Appgate SDPIは第三者へのアクセスに関して大きな変革をもたらし、請負業者やベンダー、その他の第三者が必要とするシステムへのアクセス権を一括で割り当て、その有効期限を設定することが容易となりました。「Appgateを導入する前は、第三者でもフルアクセスすることができた。Appgateのおかげで、第三者が必要とするアプリにのみアクセスを許可することができるようになった」と、大手メーカーの企業インフラストラクチャ担当ディレクターは述べています。

6. 主な利点：ゼロトラストの推進

「リソースアクセスやマイクロセグメンテーションにAppgateを利用している」大手ITサービス企業

主任アーキテクト

ZTNAソリューションとして、Appgate SDPを導入すること自体が、完全なゼロトラストアーキテクチャの実装に向けたステップとなります。Appgate SDPの管理者は、インフラをZero Trust環境とレガシー環境で構成し、ワークロードをレガシーからZero Trustに移行したり、レガシーで廃止してZero Trust環境で新たに起動したソリューションに置き換えたりすると考える傾向があります。平均して、ゼロトラスト環境の85%のシステムへのアクセス制御にAppgateを使用しています。

重要なのは、Appgate SDPはユーザーアクセスだけに特化しているわけではなく、リソース間のアクセスも管理できるということです。ある大手ITサービス企業のプリンシパルアーキテクトは「当社はリソースへのアクセスとマイクロセグメンテーションにAppgateを使用している」と述べています。中堅のソフトウェアおよびITサービス企業の主任企業アーキテクトも同様に、「すべてのレベルにおいて、システム間（通信）のためにAppgateの導入を考える必要がある」と述べています。多くの企業が辿る導入の過程での、ユーザーアクセスのゲート化は低いところにあるゴールであり、まず第一に追求されます。システム間アクセスの管理は、計画や実装がより複雑であり、多くの企業は、Appgate SDPを導入するまでは、システム間の関係をマッピングし、どのシステムがどのように他のシステムと通信しているかを確認するためのツールさえありませんでした。

Appgate SDPのユーザーは、ゼロトラスト環境のシステムへのアクセスを、平均して

85%Appgate SDPで制御しています。

7. 結論

組織は通常、環境における複数の問題を解決するためにAppgate SDPを導入します。最初はリモートユーザー用のVPNを置き換えることから始めますが、すぐにこのソリューションはあらゆるユーザーアクセス問題の解決に適用し、ゼロトラストの幅広い展開の基礎とし、クラウドへの迅速な移行を可能にするものとなります。

すべての領域において、Appgate SDPは、アクセス管理に必要な時間やスタッフの作業時間を大幅に削減し、変革をもたらしてくれます。同時に、組織が行使できる管理の粒度を大幅に向上させ、パートナー、請負業者、監査人など、第三者へのアクセスをより広く、より安全に拡張することができます。

また、ネットワークレベルでゼロトラストの原則を実施することにより、Appgate SDPは保護されたリソースを、アクセスすることを意図していない人やシステムから見えなくするため、組織の脅威面を劇的に減らし、組織が対処しなければならないサイバーセキュリティ事件の数を減少させてくれます。

8. 事例紹介

8.1 事例紹介のまとめ

金融サービス企業、統制を強化しながらユーザアクセス管理を改善 Appgate SDPのよりきめ細かいエンタイトルメント機能と優れた自動化は、ゼロトラストアジェンダの推進にも貢献しています。

国際ITサービス企業、深いゼロトラスト機能を実装 マネージド・ホスティング・ソリューションの全領域を顧客に提供している同社は、ネットワーク内 およびアクセスポイントでの通信を完全に制御できるソリューションを必要としていました。

国際ITアウトソーシング企業、ネットワークコレクションの保護が必要 企業全体のアクセスを管理し、ゼロトラスト環境を構築するための単一のソリューションが必要 だったのです。そのため、Appgate SDPを選択しました。

ゼロトラストに関する行政命令を受け、連邦政府機関がZTNAの推進を再強化 長年の努力の結果、進展はほとんどありませんでしたが、今ではより多くのリソースがクラウドに シフトしています。Appgate SDPは、この組織のクラウドネイティブなアクセスポイントアーキテクチャの重要なコンポーネントとなりました。

グローバルアウトソーシング企業、AWSリソースへの安全なアクセスを制御 既存の方法よりも安全性が高く、オンプレミスとリモートの両方のユーザー（社員または第三者）に適用できるソリューションが必要でした。Appgate SDPは、そのような問題を解決してくれました。

ソフトウェアおよびITサービス企業、拡大を支える迅速なゼロトラストを選択 この企業は、国際的な事業拡大を促進するためにゼロトラストを追求しましたが、従来のVPNと「ハード境界」アプローチがそれを妨げていました。Appgate SDPは、彼らの問題を解決し、オペレーティングモデルの変革につながったのです。

レガシーVPNソリューションの置き換えというニーズを持つグローバルメーカーが求めていたもの Appgate SDPは、レガシーVPN技術を置き換えることで、より安全性を高めることができました。

保険会社、施工管理会社にゼロトラストの導入を促進 最初のステップはアクセス管理ツールであることは明らかで、レガシーVPNとは異なり、場所を特定した処理を簡単に行うことができ、IT部門の作業を軽減するツールが必要でしたが、Appgate SDPがその解決策となったのです。

大手インターネット通販企業、ゼロトラストの最小権限アクセスを実現 さらに、リモートとオンプレミスのユーザーベース、クラウドとオンプレミスのリソースにまたがる1つのツールを求めていました。Appgateはその声に応えました。

8.2 金融サービス企業、統制を強化しながらユーザアクセス管理を改善

この金融サービス企業では、アクセス権限の制御と自動化を改善することでユーザーアクセス管理を改善し、ゼロトラストアジェンダの推進にも役立つソリューションを必要としていました。他のソリューションを評価した後、Appgate SDPを選択しました。

スタッフ	19,000
収益	\$8.3B
文化	積極的

「承認された後に実際に実装にかかる時間は数秒から5分程度。Appgate以前は、承認までの経

過時間はほぼ同じだったが、チームが過密状態だったため実装に必要なハンズオン情報セ

キュリティの時間に平均して1週間かかっていた」シニアインフォメーションセキュリティエンジニア

Appgate SDPによる権限作成の自動実行と、アクセス権限のリクエストと承認のワークフローを組み合わせることで、1週間かかっていたプロセスが数時間で済むようになり、しかもそのほとんどが実行ではなく承認フェーズで済むようになったのです。エンタイトルメントの変更も同様に、平均2日かかっていたものが2分に短縮されました。

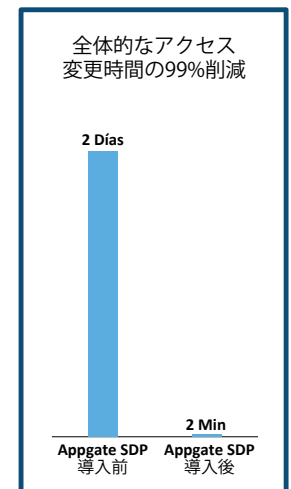
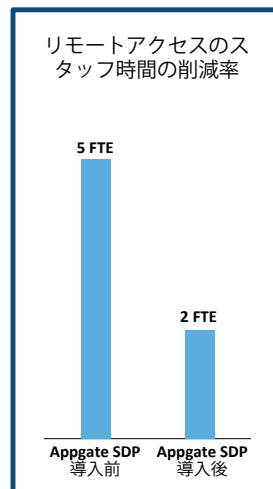
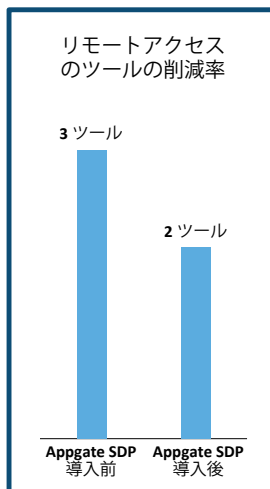
しかも、これまで必要だったスタッフの作業時間の40%で、使用するツールも3分の1まで減らすことができました。

現在、リモートアクセス管理に加え、同社はオンプレミスユーザー向けのAppgate SDPの導入にも取り組んでいます。この組織は、ワークロードの約9%しかクラウドに移行していませんでしたが、クラウドサービスへのアクセス

をAppgate SDPで段階的に管理するようになりました。既存のクラウドワークロードのほとんどはAppgate SDPと関連しており、将来の展開もすべてAppgate SDPになる予定です。

リモートアクセスにAppgate SDPを幅広く導入したことで、この組織はVPNを完全に廃止することができ、真のゼロトラストへの道を歩む最初の重要なステップと位置付けています。Appgate以前は、ポリシーの40%が何らかの形で動的でコンテキストを意識したものでしたが、Appgate後は60%になりました。

IaaS環境の83%がAppgate SDPで保護されています。



8.3 国際ITサービス企業、深いゼロトラスト機能を実装

この企業は、データセンターの空のラックから、管理されたパブリッククラウドインフラまで、マネージドホスティングソリューションの全領域を顧客に提供しています。同社は、基本的なホスティングのルーツから進化するにつれ、ネットワーク内の通信とアクセスポイントの通信を完全に制御できるソリューションを必要としていました。

スタッフ	8,000
収益	\$1B
文化	穏健派

「多くの製品はWebのみにフォーカスしていたが、Appgateはネットワーク中心だったので非常に

興味があった」主任アーキテクト

Appgate SDPは、リモートユーザーとオンプレミスユーザー、自社ユーザーとサードパーティユーザー（この場合、第三者は同社の顧客）の両方のアクセスを制御するために導入されました。また、自社のアプリケーションをクラウド環境に移行する際の障壁や障害を取り除くために、Appgate SDPは導入されました。

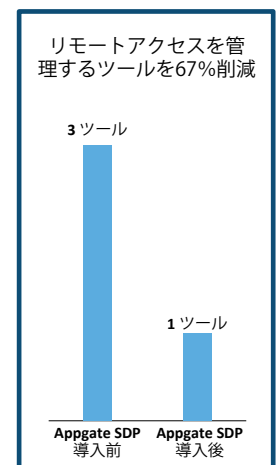
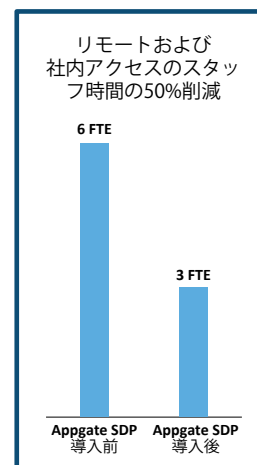
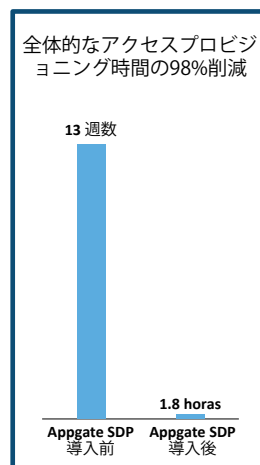
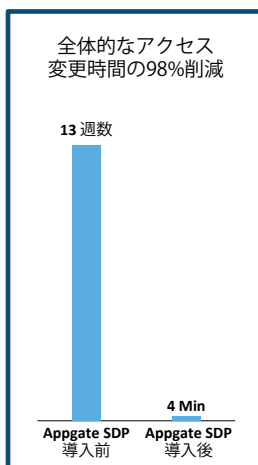
Appgate SDPは、ユーザーのプロビジョニング時間とユーザーのアクセス変更時間を根本的に改善し、それぞれ98%削減することに成功しました。これまで3日かかっていたクラウドユーザーのプロビジョニングは10分で、1時間かかっていたクラウドアカウントの変更は30秒で済むようになりました。

また、同社はインフラ全体にゼロトラストを採用し、マイクロセグメンテーションを促進するためにAppgate SDPを主要ツールの1つとして取り組んでいます。システムの30%をゼロトラスト環境に移行し、その100%をAppgate SDPで保護しています。将来的には、Appgate SDPの存在により機能的に冗長になったスタンドアロンNACソリューションを廃止する予定です。現在のNACソリューションでは、エンドポイントの約60%がライセンスを取得していますが、これをゼロにするつもりです。

Appgate SDPは、あらゆるレベルのネットワークやシステムへのアクセスを迅速化・厳格化するだけでなく、セキュリティインシデントを含むネットワークアクセスイベントを以前よりもはるかに細かく可視化できるようになりました。導入後、システムへの不正アクセスに関連するインシデントは劇的に減少しています。

「多くの製品はWebのみにフォーカスしていたが、Appgateはネットワーク中心だったので非常に

興味があった」主任アーキテクト



8.4 国際ITアウトソーシング企業、ネットワークコレクションの保護が必要

非常に大規模な国際的ITアウトソーシング企業であり、アプリケーション自動化企業であるこの会社は、買収や合併によって成長する他の多くの企業と共通の問題を抱えています。企業全体のアクセスを管理し、ゼロトラスト環境を構築するための単一のソリューションが必要だったのです。そこで選ばれたのが、Appgate SDPでした。

スタッフ	130,000
収益	\$16B
文化	Agresivo

「VPNソリューションによって、既知のセキュリティインシデントが発生してしまふ。私たちは、これ

らのVPNから完全に移行した。Appgateでは、セキュリティインシデントはまったく発生していな

い」主要プログラムおよびネットワーク担当副社長

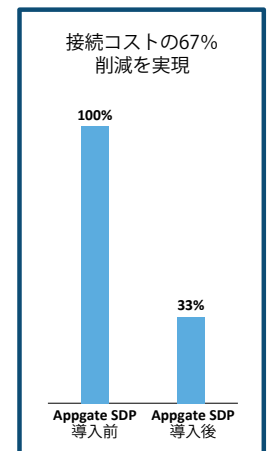
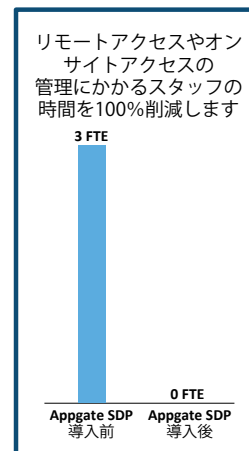
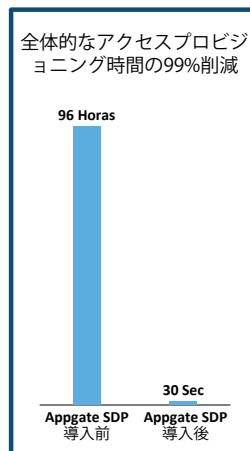
Appgate SDPは、互いに別々に管理され、連携が限られている寄せ集めのVPNソリューションに取って代わりました。一貫性のある自動化されたセキュアアクセスプラットフォームに移行した結果、ユーザーのプロビジョニングと権限の変更が大幅にスピードアップしたのです。Appgate以前は、クラウドやリモートのユーザーアカウントのプロビジョニングに平均4日かかっていましたが、今では平均30秒しかかかりません。アカウントの権限変更には4時間かかっていましたが、Appgate SDPでは30秒に短縮されました。

さらに、Appgate以前はリモートアクセスの管理に3FTE分のスタッフが必要となっていました。Appgate SDPとワークフローの自動化により、その時間はゼロとなりました。サードパーティユーザーの管理も同様で、Appgate以前は専任スタッフ3人分の時間が必要でしたが、Appgate以降は、そのようなスタッフの時間は全く必要なくなりました。

Appgate SDPは重要なセキュリティ可視化資産となり、過去1年間に進行中の3つのランサムウェア攻撃を発見するのに役立ちました。Appgate SDPは、アクセス制御の再考と統一を可能にするだけでなく、MPLS接続からの安全な移行とSD-WANの導入計画からの撤退の両方を後押ししています。

Appgate SDPを導入して以来、同社はMPLSを導入していた600のサイトすべてからMPLSを撤去しました。また、専用インターネットアクセスによって各サイトへの帯域幅を大幅に増やしたにもかかわらず、全体的な接続コストは67%も減少しました。オープンなカフェスタイルのWiFiネットワークについて、主任アーキテクトは「私たちのオフィスはまるでスターバックスのようだ」と述べています。

Appgate SDPは、全体的な接続コストを67%削減することを可能にしました。



8.5 ゼロトラストに関する行政命令を受け、連邦政府機関がZTNAの推進を再強化

政府機関は、ゼロトラストアーキテクチャの実装に何年も取り組んでおり、クラウドリソースをより幅広く活用するように移行することも進めてきました。EO14028を含むサイバーセキュリティに関する最近の一連の行政命令は、ゼロトラストの追求を損なうことなくクラウドに進出することへの新たな危機感を抱かせるものでした。Appgate SDPは、組織のクラウドネイティブなアクセスポイントアーキテクチャの重要な構成要素となっています。

スタッフ	250,000
収益	\$234B
文化	積極的

「マイクロセグメンテーション(システム)ーこの分野で真のライバルはあまりいない...マイクロセグ

メンテーションとデバイスコンプライアンスの組み合わせが好きだ」クラウドネイティブアクセスポ

イント、プロダクトマネージャー

Appgateを導入することで、必要なアクセス権限のみを持つアカウントが、リクエストを受けてから平均30分以内にプロビジョニングされる環境を構築することができました。また、アカウントに設定された権限の変更は、平均5分以内で完了します。

Appgate SDPの利用を拡大し続ける中で、非機密環境におけるMPLS通信の利用や、最近のSD-WANの導入に関しても再評価が行われるでしょう。ITチームは、インターネット上で真に安全な通信を行うために、MPLSの標準的な使用とSD-WANのいずれが必要かを評価することになるでしょう。

そしてもちろん、ユーザーに対するZTNAは、ゼロトラストに移行するために実施される「193の別々の活動」の1つに過ぎません。バックエンドのサーバーやサービスに対するマイクロセグメンテーションやZTNAの導入もその一つです。現時点では、組織の100%のサーバーがゼロトラスト環境にあり、その100%がAppgate SDPで保護されているのです。

ゼロトラスト環境のサーバーの割合100%

Appgate SDPで保護されたゼロトラスト環境のサーバーの割合:100%

Appgate SDPによる主な利点

Zero Trust環境でAppgate SDP
によって保護されるサーバーの割合

100%

Zero Trust環境のサーバーの割合

100%

8.6 グローバルアウトソーシング企業、AWSリソースへの安全なアクセスを制御

クラウドへの移行を促進し加速するために、このグローバル派遣およびアウトソーシング企業は、AWSのリソースへのアクセス制御の問題に対する迅速なソリューションを必要としていました。また、既存の方法よりも安全性が高く、オンプレミスやリモートのユーザー（社員や第三者）に適用できるソリューションが必要でした。Appgate SDPは、これらの問題をすべて解決してくれたのです。

スタッフ	20,000
収益	\$7B
文化	積極的

「ユーザーを取り込んだら、APIを最大限に活用して、認証活動の大部分を完全に自動化する」

クラウドソリューションアーキテクト

具体的には、ハードウェアトークンを用いたFIDO-2 MFAをサポートし、既存のソリューションでは実現できなかった第三者によるシステムへのアクセスを安全にサポートするソリューションを探していました。

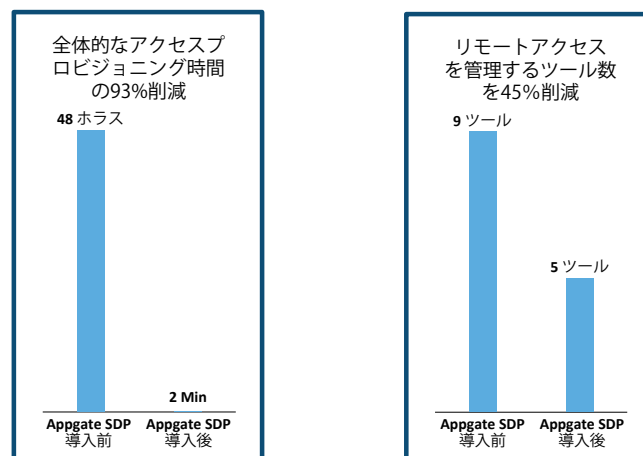
これらはすべて、すでに10年前から進められていたクラウド移行に対応するもので、50のアプリケーション（移行計画全体の約65%）が移動し、4つの別々の環境に配置されることになりました。この異なるシステムや環境間でのアクセス管理の難しさが移行を遅らせる一因となっており、現在も多くのアクセス方法が使われています。今後は、Appgate SDPで管理の集約と合理化を進めていく予定です。

同社では、クラウドリソースをゼロトラスト環境と位置づけ、そのリソースの100%はAppgate SDPで保護されています。Appgate SDPによるアクセス管理の向上もあり、EMEAデータセンターを閉鎖し、そこに残っているワークロードをすべてクラウド環境に移行し、約85%~90%の移行を達成する予定です。

リソースへのサードパーティへのアクセスが許可され、30分でプロビジョニングでき、わずか2分

で変更できるようになりました。

Appgate SDPが解決したもう1つの困難は、企業リソースへの第三者によるアクセスでしょう。Appgate SDPを導入する前は、このようなアクセスは許されませんでしたが、Appgate SDPを導入することで、今ではそれが標準的な手順となりました。アカウントは30分でプロビジョニングでき、必要に応じてわずか2分で変更することもできるのです。



8.7 ソフトウェアおよびITサービス企業、拡大を支える迅速なゼロトラストを選択

中堅のソフトウェアおよびサービス企業は、国際的な拡張を促進するためにゼロトラストを追求していましたが、従来のVPNと「ハード境界」アプローチにより、それが妨げられていました。Appgate SDPは彼らのこの問題を解決し、運用モデルの変革へとつながりました。

スタッフ	2,350
収益	\$535M
文化	積極的

「Appgateの導入により、IT総費用を6%、セキュリティ費用を5.7%削減した」企業主
任アーキテクト

Appgate SDPを導入する以前から、ゼロトラストは、海外を含む社内ユーザーと、サプライヤーやパートナーを含む外部ユーザーの両方に対して、安全で適切に制限されたアクセスを確保する唯一の方法として、何年も前から目標とされていました。将来の理想的な環境としては、場所に依存しないきめ細かなアクセス制御、膨大な手作業を必要としない国際的なコンプライアンス体制のサポート、顧客のセキュリティ評価の過程で「レッドチーム」活動に従事する会社のセキュリティサービススタッフの邪魔にならないことが同時に求められていました。

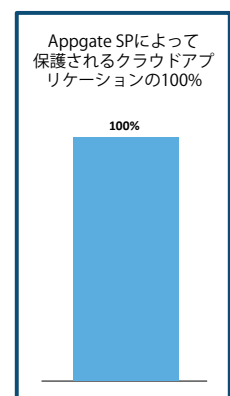
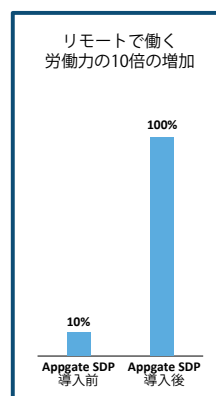
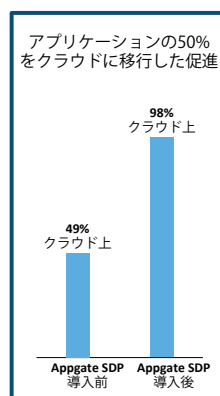
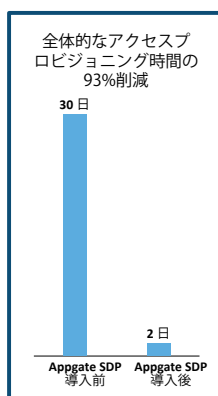
不十分なソリューションに何度も失望した後、同社はAppgate SDPを導入しました。新規ユーザーに必要なアクセス権を付与するのに30日かかっていたのが12時間になり、権限の変更も数日から数分になりました。さらに、ユーザーエクスペリエンスもVPNと比較して大幅に改善され、接続の確立がより速く、より簡単で、より信頼できるものとなりました。このため、従来のVPNソリューションからの移行が急速に進み、エンドユーザーは実際に新システムへの移行を要求し、同僚にも同じように移行するよう促しました。現在、Appgateは、CEOからすべての従業員に渡るまで、ほぼすべてのアクセスを制御しています。

新規ユーザーに必要なアクセス権を設定するのに30日かかっていたのが12時間になり、権限の

変更も数日から数分になりました。

多くのVPNアプライアンスを廃棄し、大幅なコスト削減を実現した後、彼らはZTNAモデルがシステムへのアクセス制御方法を変えただけでなく、プライベートWANを完全に排除する可能性を生み出したことに気づきました。WANは主にバックエンドシステムへの安全なアクセスを提供するために存在していました。ZTNAへの移行は、公衆インターネット上で安全なアクセスを簡単に提供できるようになり、問題のシステムにとってはほぼ同等のパフォーマンスで提供できることを意味します。

このような変革が進み、さらなるコスト削減を実現している最中に、パンデミックが起こり、さらに一歩前進しました。リモートワークへの移行に続いて、もう誰も会社の施設で働く必要はない、ということに気づいたのです。その結果、ほぼすべてのオフィスが閉鎖され、自宅での常駐勤務が可能となりました。Appgate SDPのおかげで、すべてのユーザーが常にリモートユーザーとなることができました。



8.8 レガシーVPNソリューションの置き換えというニーズを持つグローバルメーカーが求めていたもの

レガシーVPNソリューションの置き換えが急務であるグローバルメーカーが求めていたものは、単なる新しいVPNではなく、全体的なセキュリティ態勢を強化することでした。Appgate SDPは、その両方を実現するのに貢献したのです。

スタッフ	5,000
収益	\$1.5B
文化	先端技術志向

最初の目標は、リモート、オンプレミス、サードパーティユーザーのアクセスを管理することでした。さらに、ワークロードをクラウドに移行し始め、クラウドリソースへのすべてのアクセスを管理することを計画しています。そして最終的には、Appgate SDPを基軸として、完全なゼロトラストのネットワークアクセスアーキテクチャを実現するつもりです。

「Appgateは、よりきめ細かいアクセス管理を可能にする。Appgateを導入する前は、アクセスは

オール・オア・ナッシングだった。Appgateは、アクセスの詳細をより厳密に管理することができ、

しかもその時間はフルアクセスを許可する時間の3分の1。Appgate以前は、プロビジョニング(オ

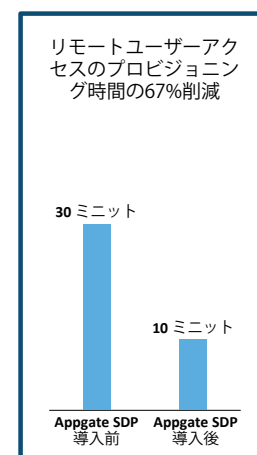
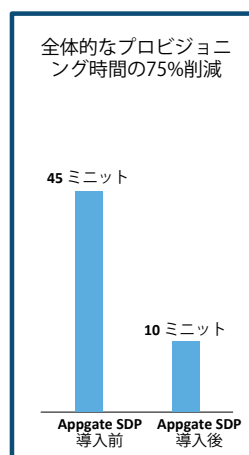
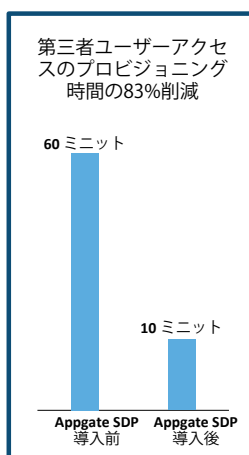
ンプレミスユーザーのアクセス設定)もなく、ただネットワークに接続するだけだった。Appgateで

は、すべてのユーザーに対して安全なポリシーを設定できるようになった」企業インフラストラク

チャ担当ディレクター

彼らは新規ユーザーのアクセス権設定にかかる時間を平均75%削減することに成功しました。また、リモートユーザーとオンプレミスユーザーを対象に、あらゆるリソースにアクセスできる「オールアクセス」モデルから、非常にきめ細かいモデルへと移行したことも大きな成果でした。サードパーティユーザーも同様で、たとえ仕事のために1つのリソースにアクセスする必要があったとしても、他のすべてのリソースを見ることができました。現在では、3つのクラスのユーザーが、実際にビジネス上の必要性があるリソースにのみアクセスできるようになっています。

Appgate SDPでリソースへのアクセスにレベル差を設けた結果、同社はシステムのサイバーセキュリティ脅威面を「大幅に削減」し、ゼロトラスト環境に向けて大きな一歩を踏み出すことができました。彼らの最終的なゼロトラスト目標は、アクセスを広く開放するのではなく、「役職や所属会社、場所に関係なく、すべての人が認証・承認された上でアクセスする必要がある」ようにすることで、「オンプレミスでもオフプレミスでもエンドユーザを同じように扱う」ことなのです。



8.9 保険会社、施工管理会社にゼロトラストの導入を促進

ある小規模な建設管理会社では、サイバーセキュリティ保険会社の後押しを受けて、ゼロトラストに向けた取り組みを行う必要がありました。最初のステップはアクセス管理ツールであることは明らかなですが、従来のVPNとは異なり、ロケーションに応じた処理を簡単に行え、かつIT部門の作業を軽減するツールが必要でした。Appgate SDPはその解決策だったのです。

スタッフ	225
収益	\$700M
文化	穏健派

「セキュリティプロバイダーがゼロトラストを話題にし始め、Appgateはその方向性にぴったりだと

思った。VPNとは異なり、場所を特定したことが簡単にできる」IT部門ディレクター

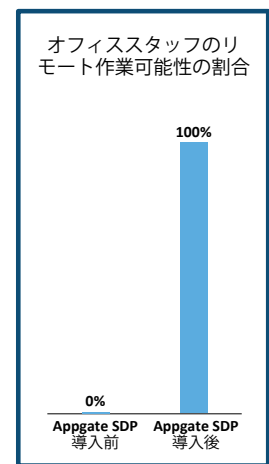
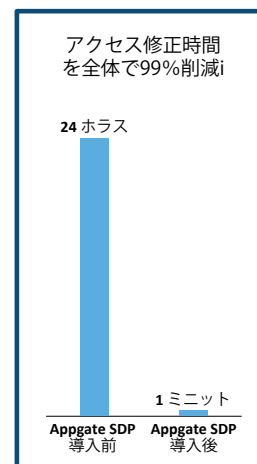
彼らは、まずリモートユーザーを管理するためにAppgate SDPを導入しましたが、次にオンプレミスユーザーを取り込むことも進めました。アカウントのプロビジョニングにかかる時間が大幅に短縮されはしませんでした。アカウントの変更にかかる時間は大幅に改善され、リクエストから反映されるまでの平均時間は丸1日から約1分まで短縮されました。また、プロビジョニングのスピードアップはなかったものの、利用可能なアクセスコントロールの粒度が大幅に改善されました。

IT部門は、リモートワークの拠点からオンプレミスのアプリケーションへのプライベート通信に、サイト間VPNをプロビジョニングしていました。また、これらのVPNを経由して、クラウドバウンドのトラフィックをバックホールしていました。Appgateの導入が進むにつれ、アクセス管理の改善に加えて、アプリケーションのパフォーマンスも向上しました。Appgate SDPエージェントのインテリジェントな通信ルーティングにより、各ユーザーのセッションは、そのユーザーにとって最もパフォーマンスの高いインGRESSポイントに配置され、宛先に送信する前にすべてを固定データセンターにバックホールすることに伴う遅延が解消されました。

導入後、セキュリティインシデントは大幅に減少しました。

セキュリティインシデントを

パンデミックの後、Appgate SDPは、ワークパターンの全体的な変化も促進しました。他の多くの企業と同様、パンデミックによって、同社は一時期、ほぼ100%のリモートワークを行うようになったのです。しかし、ビジネスの性質上、チームの7割は常に現場にいることになりました。パンデミックが収束し、他の社員もオフィスに戻ろうとなった際、Appgateが在宅勤務を安全かつ効果的に実現したことで、柔軟性を持って誰でも継続的にリモートワークができるようにしようという意見も出てきました。



8.10 大手インターネット通販企業、ゼロトラストの最小権限アクセスを実現

大手インターネット小売業は、オンプレミスとクラウドの両方のリソースに対して、リモートとオンプレミスのユーザベースにわたって最小特権アクセスを実装できるアクセス管理ソリューションを求めています。Appgate SDPがそれに応えることとなったのです。

スタッフ	17,000
収益	\$8.9B
文化	積極的

「当社のレガシーな社内システムの多くはパッチが適用されておらず、修復が困難または不可能

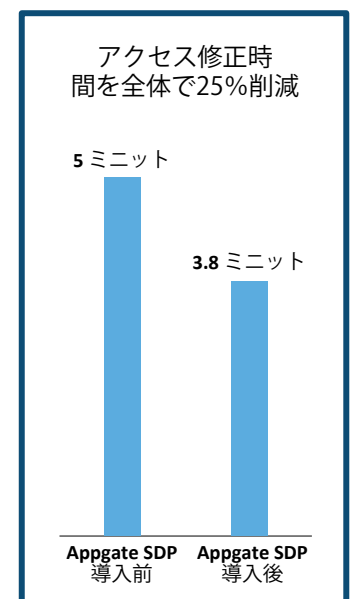
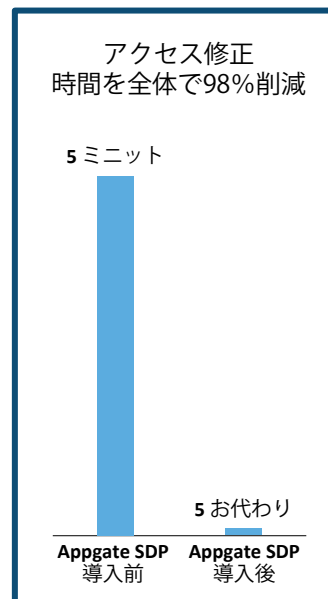
な脆弱性を含んでいる。これらの機械へのアクセスを正当なニーズを持つ人だけに限定すること

で、攻撃対象が大幅に減少した」セキュリティオペレーション担当アソシエイトディレクター

このクラウドネイティブ企業は、ユーザーアカウントの作成とアクセス権の割り当てを高度に自動化したプロセスをすでに持っていました。Appgate SDPにより、付与されるアクセスをより細かく設定する機能が追加されました。さらに、Appgate SDPは、既存の洗練されたプロセスがあったにもかかわらず、プロビジョニング後の権限変更に必要な時間を平均で25%削減することができました。特にクラウドユーザーのアクセス変更については、98%の削減を達成しました。この比較は、Appgate以前はクラウドユーザーが同じ環境内のあらゆるものにアクセスできたのに対し、現在はユーザーが業務に必要なシステム

だけにアクセスできるようになったという点で、より説得力があります。リモートアクセスやオンプレミスへのアクセスも同様で、管理の質は非常に向上しています。特に第三者からのアクセスについては、きめ細かな制御により、社員以外（ユーザーの2%近く）が非公開のアプリケーションにアクセスするレベルを劇的に下げました。

アプリケーションはクラウドで開発され、アクセス管理はビルドプロセス全体の一部として自動化されるようになりました。Appgate SDPは、このアクセス管理の自動化の実現に重要な役割を果たし、開発チームのCI/CDパイプラインに統合されています。同社はクラウドネイティブであるにもかかわらず、それすらもパッチ適用不可能なセキュリティホールを持つレガシーシステムを保持しています。Appgate SDPは、これらのシステムに誰がアクセスし、どのようにアクセスできるかを厳密に制御する仕組みを提供することで、脅威の表面を減らすと同時に、移行にかかる費用を先送りすることに貢献しました。



9. 方法論

2022年9月、Nemertesは、Appgate SDPのビジネス価値と運用上の影響を明らかにするために、カスタマイズした仮説と質問のセットを作成しました。これらの仮説をAppgate社に提出し、Appgate社からインタビューに応じる経験豊富な顧客の名称が提供されました。Nemertesは、2022年10月～2023年1月に参加者との通話によるインタビューを実施しました。Nemertesのシニアアナリストは、すべての参加者に単独でインタビューを行い、各組織のAppgate SDPの使用経験に関する詳細なデータを集めました。そして、Nemertesは、各組織のデータを分析し、組織全体のデータをまとめました。なお、各組織の競合情報を保護するため、組織名は伏せています。

Nemertesについて: Nemertesは、リサーチベースのアドバイザリーおよびITコンサルティング会社で、新興テクノロジーのビジネス価値を分析する会社です。2002年以来、データ駆動型の業務およびビジネス指標に基づき、戦略的で顧客を中心とした提案を行い、企業が従業員や顧客に技術革新を成功させるための支援を行ってきました。Nemertesの優れたデータは、クライアントがより良い意思決定をするのを支援しているのです。